

morinosってなあに？

モリノス

morinosは、

すべての人と森をつなぎ

森と暮らす楽しさと

森林文化の豊かさを

次の世代へ伝えていくことを

目的としています。

morinos (モリノス) は、
森林総合教育センターの愛称。
「森」の中にある、みんなの「巣」です。

大切にしていることは？

「学ぶ」ではなく「感じる」

森を学ぶのではなく、まずは森を楽しみ感じる事が何より大切です。アメリカの科学者、レイチェル・カーソンは著書「センス・オブ・ワンダー」の中で、「知ることは感じることの半分も重要ではない」と記しています。「すごいなあ！」「不思議だなあ！」が、本当の学びの原動力になります。

「部分」ではなく「全体」を

木、虫、キノコなどを1つの面から見るのではなく、そこからひろがるつながりや、用途、時間軸、サイズなどいろんな切り口で想像しながら見るのが大切。「木を見て森を見ず」にならないように！

トンガリわくわく実験場

私たちはつい前例を気にしてしまいがち。でも、morinosは違います。「いいね！」「面白そう！」とビビッと感じたら、まずはやってみる。morinosは「前例をつくるフロンティア」であり続けたいと思っています。

みんなで一緒につくる

morinosは自分たちが使う空間を、観察を重ねながら自分たちでゆっくりとつくりあげていくことを大切にしています。そうすると、本当に必要で使いやすいものができたり、つくるプロセスそのものが学びになったり…とにかくいいことがいっぱいあります。

臨機応変・柔軟に変化しつづける

対象にしているのは、森と人。どちらも予測のつかない相手です。だから、プログラムもつくり込んだり固めたりすると臨機応変に対応できません。想定はするけど、目の前で起きていることを受けとめる。走りながらつくり続けます。

